

Ⅶ 地区ごとの植栽管理方針

1 史跡内

(1) 本丸(写真1・2, 第35図)

ア 課題

本丸内には、かつて本丸御殿が密集して建てられていたが、明治期以降に植栽され中・高木に成長したカエデ類などの根が地下遺構に与える影響が懸念される。また、石垣天端に植えられたアカマツは石垣に変位を与える要因となっている。

イ 具体的施策

- (ア) 保存管理計画書における第1種地区であり、整備基本計画から城跡の象徴性を高めるため、もっとも密度の高い史跡整備を行う地区としている。
- (イ) 明治41年以降に植えられた本丸内のももみじやカエデ等の樹木は、整備基本計画において保全を図ることとしているが建物跡などの遺構と重複していることから、整備に伴う発掘調査の成果を踏まえ地下遺構と重複しない位置に本丸の特色を生かすような根の張らない低木やマツを植える。また土塀などの区画を低木等で表示するなど実施設計時に反映する。
- (ウ) 石垣の保全に支障を及ぼす可能性の強い石垣天端縁辺部のアカマツや巨木となって地下遺構に影響を及ぼし、眺望を阻害している移入木のイチョウ、チョウセンゴヨウをはじめ、ウラジロモミ、カシワ、トチノキ、トドマツなどの巨木は適時伐採を進める。
- (エ) 本丸門への登城坂の樹木のうち、正面性の確保と石垣の顕在化を図る目的からサワラは伐採する。また、本丸門への登城坂のアカマツは、石垣の顕在化と遺構保護を図るため危険性の状況を踏まえて更新を図る。
- (オ) 石垣に囲まれた区域は、在来木の植生に限定することとし、移入木のライラックは撤去を行う。



写真1 本丸のもみじ



写真2 本丸(明和三年「盛岡城図」)

(2) 二ノ丸(写真3・4, 第36図)

ア 課題

高木や中・低木の多くは、明治末期から大正期にかけて盛岡農学校が計画して植えられと伝えられている。特にトチノキはパリのシャンゼリゼのマロニエ通を模したもので、秋季には西側のカエデやモミジとともに市民の憩いの場となっている。

また、南西部には勅諭下賜五十周年を記念して建てられた「五訓之森」(「昭和七年四月二十四日建之」)の碑があり、イチョウ、ノムラカエデ、エノキがあるがどの樹木かは明らかではない。地下遺構との関係は、中ノ丸の石垣が撤去されてはいるが、この北側の玄関部分やコシカケ遺構が遺存している可能性があることから、高木の根が地下遺構に与える影響が懸念される。

イ 具体的施策

- (ア) 本丸と同様、第2期整備の実施設計において遺構の状況を踏まえて樹木のあり方の検討を行うが、原則として遺構のない位置に本丸のモミジの機能を移す。
- (イ) 石垣に囲まれた区域は、在来木の植生に限定することとし、移入木のアセビ、イチョウ、カラタチ、サンシュユ、チョウセンゴヨウ、ヒトツバタゴ、ハナカイドウ、ハナミズキ、バンクスマツ、ミズキ、モクレン、リュウキュウツツジ、ボケ、ロウバイは、段階的に在来木に更新する。
- (ウ) 東側の石垣壁面と補修石垣の上面に生育しているケヤキ、イロハモミジ、ザイフリボク、ヤマボウシ、イボタノキ、ニシキギ、ハナカイドウ等石垣保全のために構築された補修石垣を保護するため伐採・撤去し、以後の植栽は行わない。
- (エ) 石垣下面に植えられているウメモドキ、ヤブツバキ、ニガキ、ニシキギについても移植や伐採を行う。
- (オ) 石垣天端のアカマツについては、成長にともない地下遺構に影響が及ぶことから伐採することとし、以後の更新は行わない。
- (カ) 石垣近くに植生しているイチイ、カヤ、コウヤマキ、コブシ、サワラ、シノブヒバ、ヒヨクヒバについては、石垣変位の状況と眺望の確保を検討しながら剪定と伐採を進める。



写真3 二ノ丸のトチノキ



写真4 二ノ丸(明和三年「盛岡城図」)

(3) 三ノ丸(写真5・6, 第37図)

ア 課題

櫻山神社の石垣天端や背面にスギとヒバの高木が集中しており、強風時には危険な状態となっているほか、車門跡石垣と登城坂のサワラは石垣や遺構の保存、さらには石垣の顕在化の支障となっている。また、神社西側の石垣角石上面に自生しているケヤキや曲輪南東部端に植えられているソメイヨシノの根が石垣に与える影響も懸念される。

イ 具体的施策

- (ア) 第1期整備計画の南東部及び北西部の石垣修復の実施に伴い、石垣上の樹木の伐採や剪定が必要となっている。このことから、南東部は石垣保護を目的として花崗岩の転石上のケヤキの強剪定のほか、移入木のカラタチ、樹形が損なわれている樹木の伐採を行いながら遺構のない場所に常緑樹や広葉樹を植栽する。
- (イ) 北西部は、石垣保存と修復時に支障となる瓦門上のサワラのほか、天端から5m以内のアカマツ、イタヤカエデ、イロハモミジ、クロマツ、オリハタカエデ等についても解体工事に支障となる場合には伐採の後に新たな植栽を検討する。
- (ウ) 当面の整備事業対象外となっている三ノ丸東側においては、石垣に変位を生じさせているケヤキとサワラは伐採とし、石垣天端に近接しているアカマツ、エドヒガン、スギ、ソメイヨシノについても石垣変位の推移や修景・景観を勘案しながら伐採や剪定を行なう。
- (エ) 本丸から三ノ丸にかけて石垣に囲まれた内部は、在来木の植生に限定することとし、移入木のチョウセンゴヨウ、ドイツトウヒ、ドウダンツツジ、カラタチ、バラ、ユキヤナギ、リュウキュウツツジは適時伐採を行いながら在来木とする。

(4) 淡路丸(写真7・8, 第38・39図)

ア 課題

淡路丸の東側から南側にかけては、明治期以降に植栽・更新されてきたソメイヨシノを主体としており、歴史的修景を構成する地区であることから保存が図



写真5 三ノ丸瓦門のサワラ

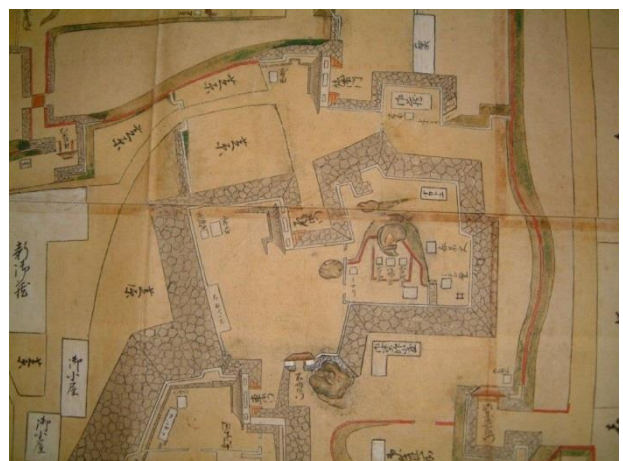


写真6 三ノ丸(明和三年「盛岡城図」)

る。一方、吹上門の石垣天端に植栽され変位を与え続けているエドヒガンやソメイヨシノのほか、石垣天端に数多くのクロマツの根が積み石に与える影響が懸念されるため、早期の対策が必要となっている。

また、西側のモミジ類は城跡内外の眺望を妨げるほど成長していることから課題となっている。

イ 具体的施策

- (ア) 淡路丸には明治期の公園整備に伴って植栽されたソメイヨシノが数多く生育しており、今後とも保護と更新を行うが、石垣の根石に近接する樹木については、更新の際に3 m以上の距離を設ける。
- (イ) 石垣に変位をもたらしているエドヒガン、ソメイヨシノは伐採しながら適地に更新を行い、石垣天端に生育しているアカマツ、クロマツは成長に伴って石垣に変位を与えることから優先的に伐採、撤去を行う。
- (ウ) 西側の菜園と本丸との相互の眺望を阻害しているオオモミジ、イタヤカエデ、イロハモミジ、コハウチワカエデ、ヤマモミジは剪定により高さを抑制し、高木となったエゾエノキ、カラマツ、ゴヨウマツ等についても剪定により高さを抑制した上で、樹形の維持を図る。
- (エ) 石垣に囲まれた区域は、在来木の植生に限定することとし、移入木のアセビ、アメリカザイフリボク、イチョウ、ウメ、サルスベリ、チョウセンゴヨウ、ドイツトウヒ、ドウダンツツジ、ライラック、ルブラカエデは伐採または移植し、在来種に更新しながら質を高める。淡路丸には明治期の公園整備に伴って植栽されたソメイヨシノが多く、今後とも保護と更新を行うが、石垣の根石に近接する樹木については、更新の際に3 m以上の距離を設ける。
- (オ) 石垣に変位をもたらしている樹木は、エドヒガン、サクラであっても伐採を行う。同じく石垣天端に近接しているアカマツ、クロマツは優先的に伐採、撤去を行う。
- (カ) 西側の菜園と本丸との相互の眺望を阻害しているオオモミジ、イタヤカエデ、イロハモミジ、コハウチワカエデ、ヤマモミジは剪定により高さを抑制



写真7 淡路丸のソメイヨシノ

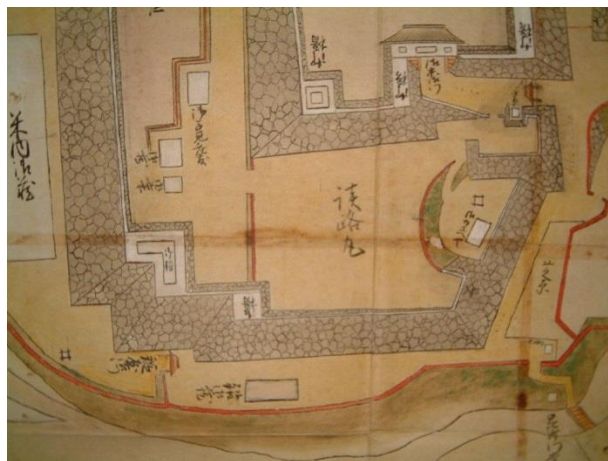


写真8 淡路丸(明和三年「盛岡城図」)

し、高木となったエゾエノキ、カラマツ、ゴヨウマツ等についても剪定により高さを抑制した上で、樹形の維持を図る、

- (キ) 石垣に囲まれた区域は、在来木の植生に限定することとし、移入木のアセビ、アメリカザイフリボク、イチョウ、ウメ、サルスベリ、チョウセンゴヨウ、ドイツトウヒ、ドウダンツツジ、ライラック、ルブラカエデは伐採、撤去し、在来木に順次更新を図る。

(5) 榊山稻荷曲輪(写真9・10, 第39図)

ア 課題

曲輪内の東側背面の石垣天端に江戸時代から生育する可能性があるエドヒガンがあるが、積み石に変位を生じさせている。

また、曲輪石垣の天端に生育しているアカマツは石垣に変位をもたらしており、枝は石垣下の吹上門にいたる登城坂に垂れ下がり歩行者に危険な状態にある。

イ 具体的施策

- (ア) 石垣天端に近接するアカマツは石垣保護のため優先的に伐採を進める。また、やエドヒガンソメイヨシノは石垣変位の状況を観察しながら剪定と伐採を行う。
- (イ) 石垣に囲まれた区域は在来木の樹木に限定し、移入木のドウダンツツジ、ハナミズキ、ボケについては随時在来木への更新を進める。

(6) 台所跡(写真11・12, 第40図)

ア 課題

台所跡の法面に密に植えられたリュウキュウツツジなどの低木は、市民から評価される一方で、樹木の下が乾燥することによる洗掘を生じさせている。また、高木も巨木となっており、その根が法面の洗掘を助長している。

イ 具体的施策

- (ア) 台所地区は、保存管理計画において第3種区域で石垣の外郭部にあたることから市民の憩いの場とできるような公園機能にも配慮した植生とする。



写真9 榊山稻荷曲輪のアカマツ等



写真10 榊山稻荷曲輪(明和三年「盛岡城図」)

- (イ) 遺構の保護上からは南側や西面の法面の中位に生育している樹木は好ましくないことから、オオモミジ、ケヤキ、サクラ、トチノキなどは剪定と強伐採を行い、枯損が顕著なシダレカツラは可能な限り保護を図る。
- (ウ) ナンジャモンジャ、ボケ、ユキヤナギ、ドウダンツツジやリュウキュウツツジなどの移入木は、密度を軽減しながら適正な配置を行う。
- (エ) バラ園は江戸時代の建物遺構と重複していることから、移設若しくは撤去を推進し、将来的に遺構表示等の整備を行う。

(7) 鉛蔵跡(写真 13・14, 第 38 図)

ア 課題

江戸時代の主な遺構のうち鉛蔵跡の位置に四阿があり、周囲には低木と植えられている。なお、鶴ヶ池の東側から本蔵の南側に生育しているケヤキ、スギ、サワラなどの高木の成長に伴って淡路丸の石垣のほか、鉛蔵跡と南西側に所在する下ノ橋との相互の眺望が阻害されている。

イ 具体的施策

(ア) 地区を代表する樹木にウメ林は、公園時に植栽されて以降、更新されて盛岡城跡の修景を構成している樹木であることから、今後とも保全を図る。なお、石



写真 11 台所跡のスギ・アカマツ等



写真 12 台所跡(明和三年「盛岡城図」)



写真 13 鉛蔵跡のウメ等



写真 14 鉛蔵跡(明和三年「盛岡城図」)

垣の根石に近接している樹木に、更新時に3 m以上の距離を保つように配置するものとし、詳細は実施設計時に検討する。

- (イ) 石垣の顕在化を図り、中津川との相互の眺望を図るためには東側斜面の高木の高さを抑制することが望ましいことから、アカマツ、イチイ、イチジク、エゴノキ、エゾエノキ、カツラ、キハダ、クヌギ、ケヤキ、コブシ、サザンカ、サワラ、スギの密度を軽減するために剪定を行い必要に応じて伐採を行う。
- (ウ) アオキ、アブラチャシシ、イボタノキ、ウツギ、ガマズミ、アカマツ、コムラサキ、サツキ、ツゲ、ツツジ、ツリバナ、ニシキギ、ニワトコ、ノリウツギ、バイカウツギ、ヤマブキ、レンギョウなどの低木について密度を軽減しながら適正な配置を行う。
- (エ) 移入木のアセビ、カラタチ、サンシュユ、ドウダンツツジ、ハナカイドウ、ユキヤナギは、密度を軽減しながら適正な配置を行う。

(8) 本蔵跡(写真15・16, 第41・42図)

ア 課題

鉛蔵跡の地区同様、鶴ヶ池の東側から本蔵南側の史跡境界沿いに生育しているケヤキ、スギ、ドイツトウヒ、エゾエノキサワラなどの高木が巨木化したことにより、淡路丸の石垣のほか、米内蔵門跡と下ノ橋との相互の眺望が阻害されている。

イ 具体的施策

- (ア) 石垣の顕在化と中津川との相互の眺望を図り、南側の史跡境界の高木の高さを抑制する目的からアカマツ、イチイ、エゾエノキ、カツラ、キタゴヨウ、クロマツ、ケンポナシ、ゴヨウマツ、サクラ、サワラ、スギ、タケ、チャボヒバ、ツバキ、トチノキ、ナツグミ、ナツツバキ、ナナカマド、ニガキ、ハナキササゲ、ヒメゴヨウマツ、マサキ、ユズリハの剪定や伐採を行いながら密度を軽減して適正な配置とする。



写真15 本蔵跡の遠景

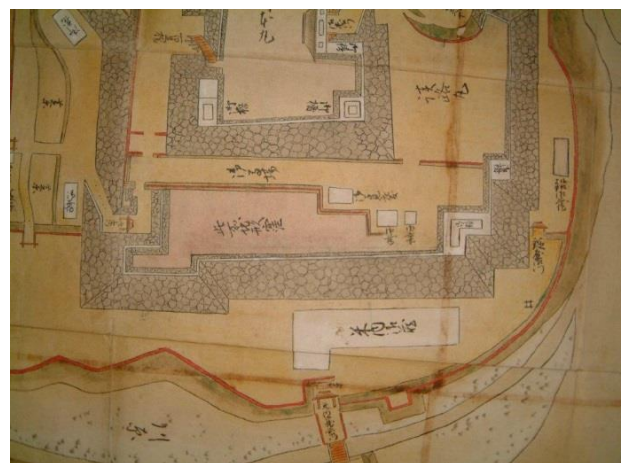


写真16 本蔵跡(明和三年「盛岡城図」)

- (イ) 中・高木のアオギリ，イチョウ，キンモクセイ，コウヤマキ，サンシュユ，チ
 ヲウセンゴヨウ，ドイツトウヒ，ハナモモ，バラ，ポポー．アセビ，サンザシ，
 ドウダンツツジ，ムクゲ，リュウキュウツツジなどの移入木は密植状態にあるこ
 とから軽減を図る。なお，巨木となった樹木は優先的に剪定と伐採を行う。
- (ウ) アオキ，イヌツゲ，イボタノキ，ウメモドキ，エゾムラサキツツジ，サツキ，
 ツゲ，ニシシギ，フヨウ，ブルーベリー，マメツゲ，レンギョウ，レンゲツツジ
 の低木は密度を軽減しながら適正な配置とする。

(9) 孫蔵跡(写真 17・18, 第 39 図)

ア 課題

坂下門から吹上門に至る登城坂の石垣上部の天端や登城坂下の石垣に近接して
 植えられているクロマツと補修(補修(はばき))石垣の上部にユキヤナギは，成長
 してその根が石垣に入り込み石垣変位の要因となっている。

イ 具体的施策

- (ア) 登城坂の下と石垣天端のクロマツは，石垣保護を図るため伐採を行う。
- (イ) 石垣保護のため構築された補修石垣の上部のユキヤナギ，登城坂下のドウ
 ダンツツジ，リュウキュウツツジは石垣保護のため優先的に撤去する。
- (ウ) サンシュユ，ハナモモ，ドウダンツツジ，ベニサンザシ，モモ，ユキヤナ
 ギ，リュウキュウツツジ等の低木は，密度を軽減して適正な配置を行う。

(10) 本新蔵跡(写真 19・20, 第 43 図)

ア 課題

本新蔵地区は，昭和 30 年代から整備が開始されたこともあり，内側の本新蔵入
 口門跡付近にハリギリやイチョウなどの高木があるが，総体的に低木が主体とな
 っている。しかしながら，都市計画道路沿いのケヤキの樹高は，三ノ丸石垣天端
 の高さを凌ぎ，相互の眺望に影響を与え，枝が道路に伸びるなどの影響を生じて
 いる。また，三ノ丸下のケヤキやイチョウは石垣の根石に近接した大木で，菜園



写真 17 孫蔵跡の近景



写真 18 孫蔵跡(明和三年「盛岡城図」)

方面と城跡の眺望を阻害し、枝が歩車道伸びるなどの課題を抱えているが、大木が故に地域のシンボリックな存在となりつつある。

イ 具体的施策

- (ア) 都市計画道路沿いのケヤキの高木は、二ノ丸や三ノ丸石垣の高さを凌いで眺望を阻害し、さらに車歩道上に枝葉が落下するなど危険な状態にあることから、優先的に剪定を行う。なお、本新蔵入口門東側のハリギリとイチョウは門跡の遺構と重複していることから伐採を行う。
- (イ) 石垣の顕在化と遺構の保護、さらには修景と眺望の確保を図るため、移入された高木であるアメリカザイフリボク、イチョウ、ウメ、サルスベリ、サンシュユ、ハナミズキは密度を勘案しながら適正な配置とする。
- (ウ) 低木の移入木であるサンザシ、ドウダンツツジ、ハナカイドウ、リュウキュウツツジは密度を軽減して適正な配置を行う。

(11) 鶴ヶ池と亀ヶ池(写真 21～23, 第 44～48 図)

ア 課題

台所跡(多目的広場)のトイレ周辺の両岸にはアカマツが林立する中にドウダンツツジが植えられ、棧橋北西の両岸にはスギとエドヒガンが生育する中にアジサイが植えられている。

また、櫻山神社から三ノ丸の西側には自生した幹廻り 4 m を超えるケヤキの大木が集中するほか、鶴ヶ池北東部の土塁上のエゾエノキなどの大木がある。これらの高木は堀の水辺周辺に緑陰をもたらし、市民の憩いの場となっているが、高～低木のほとんどが土塁跡や堀の法面に生育しており、いたるところで乾燥による堀法面の洗掘を助長している。さらに高木は中ノ橋大通線やもりおか歴史文化館と城跡との相互の眺望を妨げ、落ち葉によって堀の水質浄化に影響を与えているとともに、鶴ヶ池と亀ヶ池の北側の積み石は、内丸緑地に植えられ、巨木化したヒマラヤスギの根によって崩壊していることから課題となっている。

櫻山神社から三ノ丸の西側には自生した幹廻り 4 m を超えるケヤキの大木が集

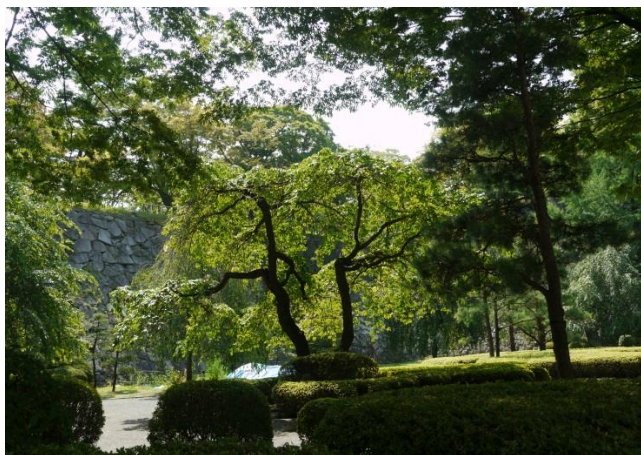


写真 19 本新蔵跡のモミジ等



写真 20 本新蔵跡(明和三年「盛岡城図」)

中するほか、鶴ヶ池北東部の土塁上のエゾエノキなどの大木がある。これらの高木は堀の水辺周辺に緑陰をもたらし、市民の憩いの場となっているが、高～低木のほとんどが土塁跡や堀の法面に育成しており、いたるところで堀法面の洗掘が生じている。また、高木は中ノ橋大通線やもりおか歴史文化館と城跡との相互の眺望を妨げ、落ち葉によって堀の水質浄化に影響を与えている。さらに、鶴ヶ池と亀ヶ池の北側の積み石は、内丸緑地に植えられ、巨木化したヒマラヤスギの根によって崩壊しており、課題となっている。

イ 具体的施策

- (ア) 鶴ヶ池と亀ヶ池は、保存管理計画での第2種区域にあたり、史跡の修景としての植栽を優先しながら、親水空間として親しまれてきた歴史的経緯から都市公園機能に配慮した植生を目標とし、詳細は実施設計時に検討する。
- (イ) 鶴ヶ池北側の中・高木のうち移入木であるサンシュユは剪定若しくは移植することとし、シダレヤナギは現在の場所に限定して保持する。そのほかのアカマツ、イロハモミジ、エゾエノキ、エドヒガン、サワラ、ソメイヨシノ、ナナカマド、モミジ、ヤエザクラ、ヤナギ、オオヤマザクラのうち、危険となっている樹木については、日常管理において密度を軽減しながら維持を図る。
- (ウ) 鶴ヶ池北側の移入木で低木のキササゲ、ドウダンツツジ、ハナカイドウ、ボケ、ユキヤナギは遺構保護を図り、密度を軽減して適正な配置とする。
- (エ) 鶴ヶ池南側の中・高木で、移入木のイチョウ、ウメ、エンジュ、カクレミノ、キンモクセイ、スモモ、ハナミズキは剪定や伐採により密度を軽減して適正な配置とする。そのほかのアカマツ、アカバナマンサク、イチイ、イロハモミジ、エドヒガン、カエデ、カツラ、クマノミズキ、ケヤキ、コブシ、サイカチ、サクラ、サワラ、スギ、ナツグミ、ヒメコマツ、ヒメシャラ、フジ、マサキ、マツ、マンサク、モクセイ、オオヤマザクラについても危険性の除去や眺望の確保を図るため密度を軽減する。
- (オ) 鶴ヶ池南側の低木で移入木のアセビ、ドウダンツツジ、ユキヤナギ、ライラック、リュウキュウツツジは遺構保護を図り、密度を軽減するため移植や伐採を



写真21 鶴ヶ池 のケヤキ等



写真22 鶴ヶ池・亀ヶ池(明和三年「盛岡城図」)

行う。在来木のアジサイ、イヌツゲ、イボタノキ、ウツギ、ウメモドキ、サツキ、トサミズキ、ニシキギ、ノリウツギ、フヨウ、ヤマツツジは密度を軽減した適正な配置とする。

- (カ) 亀ヶ池北側の中・高木で移入木のウメ、キササゲ、ナンジャモンジャは遺構保護を図るため、移植や剪定により密度を軽減する。在来木のアカマツ、コブシ、サクラ、ヤマナシについても危険性や眺望の確保を図り、密度を軽減するために剪定を行う。
- (キ) 亀ヶ池北側の低木で移入木のボケ、ユキヤナギは遺構の保護を図るため移植や剪定により密度を軽減す。また在来木のアジサイ、イボタノキ、ウツギ、サンショウについても密度を軽減し適正な配置とする。
- (ク) 亀ヶ池南側の中・高木のうち、シダレヤナギは移入木ではあるが、歴史的な修景を構成していることから、現在の場所の生育に限定して剪定しながら保持する。なお、在来木のキハダ、トチノキは遺構の保護のほか危険性の除去や眺望の確保を検討しながら剪定や伐採を進める。
- (ケ) 亀ヶ池南側の低木で移入木のハナカイドウ、ライラック、リュウキュウツツジや在来木のイボタノキ、ツツジ、レンゲツツジについても遺構の保護を図り、密度を軽減するため移植や剪定を行いながら適正な配置とする。

(12) 櫻山神社周辺(写真 24, 第 49 図)

ア 課題

三ノ丸石垣天端や根石に近接して生育したケヤキやスギなどの高木の根は、石垣積み石に変位を与えている。

イ 具体的施策

- (ア) 中・高木で移入木のウメ、ドイツトウヒは伐採を進め、在来木のイタヤカエデ、イチイ、イロハモミジ、カクレミノ、カツラ、ケヤキ、サクラ、サワラ、シダレザクラ、タケ、ツバキ、ニガキ、ヒノキ、ヒバ、モミジについても危険の除去や眺望の確保を図るため剪定や伐採により密度を軽減する。



写真 23 亀ヶ池のトチノキ

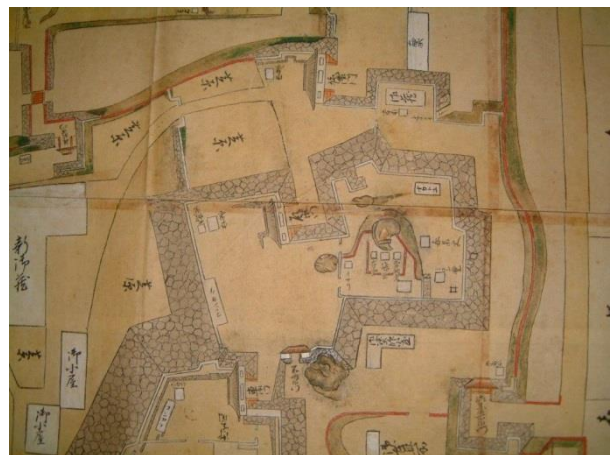


写真 24 櫻山神社周辺(明和三年「盛岡城図」)

(イ) 亀ヶ池北側の低木で移入木のアセビ、ライラック、リュウキュウツツジは遺構の保護を図るため、移植や伐採により密度を軽減する。また、在来木のアオキ、イボタノキ、サツキ、ツツジ、ニシキギ、ヤマブキ、ヤツデについても密度を軽減して適正な配置とする。

2 史跡隣接地

(1) 芝生広場

ア 課題

中津川沿いのビクトリアロードに面した芝生広場には、高木となったユリノキがあり、樹木の間隔も狭く史跡と中津川との眺望を阻害している。また、芝生広場内のマツも樹木の間隔が狭く、成長にともなって見通しが悪い状態にある。

さらに、毘沙門橋際のエゾノキ、カツラ、ケヤキ、モミジはビクトリアロード上にはみ出している状態にある。

イ 具体的施策

エゾノキ、カツラ、ケヤキ、マツ、モミジ、ユリノキは剪定と伐採により、危険の除去と中津川と盛岡城跡との相互の眺望を図る。

(2) 内丸緑地

ア 課題

内丸緑地に植えられ、巨木化した41本のヒマラヤスギの根によって鶴ヶ池と亀ヶ池の北側石垣に明治期から昭和初期にかけて積まれた石垣が崩壊している。

また、樹木の成長にともなって池側に樹根が露出しており、強風時の荷重による倒木の危険性が指摘されている。

イ 具体的施策

倒木の危険性があり、石積みを損傷しているヒマラヤスギの剪定や伐採の検討を行うとともに、鶴ヶ池・亀ヶ池本来の法面整備を検討する。